

科目名	エアラインビジネス論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	Airline Business	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	よこた けいざぶろう	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	横田 恵三郎	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	まず航空の歴史を紐解き、航空会社の仕事とそれらを取り巻く様々な機能や法律・ルールについて基礎知識を得ることが出来る。				
到達目標	航空事業全般の歴史や仕組み、また個々の業務内容について第三者に対して基礎的な説明が出来るようになる。				
授業概要	航空会社が一便一便の飛行機を安全に快適に飛ばすためにたくさんの人々（機能）が連携して責任をもって業務を遂行しています。法律や規制、国際的な枠組みもあります。それら全体の概観を掴むと共に基礎的な航空専門用語の内容等を学習する。また航空会社の現場社員による講話の時間を設ける考えです。				
授業計画					
第1回	ガイダンス、飛行機はなぜ空を飛ぶことができるのか				
第2回	エアラインビジネスとは何か、航空の歴史と変遷①				
第3回	航空の歴史と変遷②				
第4回	航空事業の基礎知識①(航空法)				
第5回	航空事業の基礎知識②(ICAO、IATA)				
第6回	実務基礎編①(都市・空港コード、エアラインコード)				
第7回	実務基礎編②(航空時刻表の見方、時差)				
第8回	実務基礎編③(PNR、MCT)				
第9回	空港①(空港整備の経緯)				
第10回	空港②(地方空港の活性化)				
第11回	航空機の運航と整備				
第12回	グランドスタッフの業務①(カスタマーサービス)				
第13回	グランドスタッフの業務②(オペレーション、グランドハンドリング)				
第14回	航空会社現場責任者による講話				
第15回	航空事業の課題と展望 まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	業界の特徴として時差を理解しないといけませんし、英語を短くした表現(省略形)が多々登場するので、その意味を都度復習して覚えて下さい(1.5時間程度)。				
履修条件 受講のルール	将来、航空関連の企業・機関に進みたいと思っている人は必ず履修してください。				
テキスト	適宜関連するプリントや資料を配付します。				
参考文献・資料	授業の中で紹介します。				
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・授業態度 50%として総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	月曜日ならびに火曜日：2～3限(10：40-12：10、13：00-14：30)				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				

<p>実務経験及び実務を活かした授業内容</p>	<p>大学卒業以来 35 年間日本の大手航空会社に勤務し、その後約 4 年間は台湾の航空会社に勤務しておりました。またその間、3 回計約 10 年の海外駐在の経験を踏まえてエアラインビジネスの醍醐味を説明しかつ海外との関わり大切さを理解できるように講義を進めていきたいと思ひます。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>もし航空機が世の中になければ人・モノの流れが滞り、日本のみならず世界のここまでの発展は有り得なかつたと容易に想像がつくと思ひます。グローバル化を支える航空事業の役割は引き続きその重要性を維持するでしょう。日本が 2030 年にインバウンド 6,000 万人の目標を掲げる中、その殆どが航空機による輸送です。LCC もさらに台頭してきています。コロナ後は地方空港にとって追い風環境にあります。まずはその航空や航空事業の基礎をしっかりと学びましょう。</p>